



## 中高生が静浜基地で自衛隊生活を体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月7日（火）と8日（水）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で実施された「青少年防衛講座」を支援した。

同基地では、昨年から航空自衛隊について理解を深めてもらうと同日講座を開催しており、今年は1泊2日で行われ、静岡県内の中高生25人が参加した。参加者からは開催前から「楽しみです」「緊張しています」との声が寄せられていた。

講座当日は、開始にあたり同基地隊員から「みんな元気に頑張ろう」という挨拶があり、参加者は貸与された作業服に着替えて、いよいよ2日間の自衛隊生活スタート。早速「右向け左」「左向け左」「前へ進め」などの号令に合わせて体の向きを変えるなどする自衛隊の基本動作を教わり、参加者はぎこちない動きながらも一生懸命に取り組んでいた。

また、飛行教育群、整備補給群、基地業務群といった基地の機能や役割について学んだほか、T-7初等練習機を見学。パイロット教育に使用しているシミュレーターも体験し、静浜基地で働く自衛隊の仕事について正しく理解を深めた。夕暮れにはライトが点灯した滑走路を歩く「ランウェイウォーク」が行われ、参加者は「すごい」「綺麗」と基地の新たな一面に何度も歓声を上げていた。

2日間でぐっと自衛官に近付いた参加者たちからは「シミュレーターが良かった」「自衛隊に入ったら、警備犬の世話をしてみたい」「初めての体験ばかりで、すべてが楽しかった」などの感想が寄せられ、中でも静浜基地の食事は航空自衛隊の中でも好評なこともあり、参加者全員が「おいしかった」と太鼓判を押した。静岡地本は、若者に自衛隊を更に身近に感じ、関心を持ってもらえるよう募集広報を行っていく。

## 「目標は自衛官」 航空自衛隊基地見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は8月9日（木）と10日（金）の2日間、航空自衛隊浜松基地（浜松市）で神奈川、栃木、群馬、長野及び静岡県の自衛官を目指す若者やその家族を対象に行われた基地見学に、38人を2日間に分けて引率した。

参加者は、隊員が生活する隊舎で整頓された生活空間や磨きこまれた靴が整然と並び様子を見学し、自衛隊の規律正しさを実感している様子であった。

また、格納庫内では整備員によるT-4中等練習機の説明を受け、参加者全員が実際に操縦席に乗り込んで操縦桿に触れた。その後、第1術科学校が保有するF-15・F-2各戦闘機も見学し、機体の大きさと存在感に参加者は圧倒されていた。

終了後、参加者からは「航空自衛官を目指して日々努力している。早く合格して活躍したい」「実際に隊員の生活や職場環境を見ることができ、不安が解消できた」などとの感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後も基地見学会を通じて自衛隊という仕事の魅力をより深く知ってもらうとともに、熱意ある志願者の道しるべとして活動していく。

## 夏休み中の子供たちが砕氷艦「しらせ」で南極を学ぶ



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月24日（金）から26日（日）の3日間、清水港日の出埠頭（静岡市）において砕氷艦「しらせ」の艦内公開支援及び広報活動を行った。

静岡県の港に「しらせ」が寄港するのは初代「しらせ」以来18年ぶりであり、現在の2代目「しらせ」は初めて。静岡県や静岡市、清水港客船誘致委員会による入港歓迎行事が24日に行われ、25日と26日は艦内の一般公開及び学生等を対象とした特別公開が実施された。

夏休み中ということもあり、地元住民や観光客など2日間で約1万5千人が訪れ、両日とも朝早くから集まった多くの家族連れが列をつくった。艦内公開では、航行の指示を出す艦橋や南極観測隊員の居室などを見学したほか、ヘリコプター用の飛行甲板では普通の氷と違いばちばちと音をたてながら溶ける南極の氷や南極大陸の石に触れることができ、見学者は歓声を上げながら遠い南極の不思議さに思いを馳せていた。

また、静岡地本は岸壁で陸上自衛隊の車両展示や制服試着体験などの広報活動を行ったほか、隣接する清水マリンターミナルで行われた「清水海洋展2018」にも参加し、海上自衛隊や「しらせ」の活動について理解を深めてもらうと、パネル展示やDVD上映を行った。

静岡地本は、今後も県内の自治体と連携して、多岐にわたる自衛隊の活動を正しく知ってもらうため広報活動を実施していく。